

園芸タイムリー情報 《今後の対策》

令和5年10月19日発行 第6号

【上川農業改良普及センター】

Tel 0166-84-2017 Fax 0166-84-2009

E-mail : asahi-nokai.11@pref.hokkaido.lg.jp

HomePage

<https://www.kamikawa.pref.hokkaido.lg.jp/ss/nkc/index.html>

全作物共通

天気は数日の周期で変わり、平均気温は高く、降水量・日照時間はほぼ
平年並の見込みです（※気象庁1ヶ月予報より）。

- ①ハウスは、夜間の保温に努めるとともに、日中の換気はこまめに行い、
温度の確保と過湿状態の緩和を図りましょう。
- ②栽培を終えたハウスは、病害虫の発生源となる作物残渣を排出し、被覆
資材を冬期間除去して、翌年の発生を抑制しましょう。
- ③越冬ハウスの大雪への前準備として、屋根被覆資材の点検、風の強いと
ころでは暴風網を設置しましょう。また、補強用支柱・筋交いなどは、
利用しやすい場所に整頓保管しておきましょう。

※農薬や資材は「地域で推奨するもの」を使用し、倍率や収穫前
日数に十分留意して使用ください。

- ◆農薬の使用に当たっては、使用基準を必ず守りましょう。
なお、品目ごとの栽培防除体系を基に減農薬でクリーンな野菜生産を実践しましょう。
- ◆防虫ネット・近紫外線カットフィルム・粘着シートなどを活用し、
適切な栽培管理と合わせ、病害虫の発生を最小限に抑制しましょう。

※この情報は、上川農業改良普及センター本所地域(旭川市、鷹栖町、当麻町、比布町、
愛別町、上川町)向けに作成されています。
気象・土壌条件・作業体系から当地域以外には、適用されませんので十分ご注意ください。
(不利益・損害などが発生した場合、当方は責任を負うことはできません)
※掲載されている農薬情報は、令和5年10月11日現在の登録内容となっていますので、
活用の際は、あらかじめ安全使用基準を確認くださいますようお願いいたします。

■□■□■□■□■□ GAP手法の活用 □■□■□■□■□■ 【経営管理編】

—作業のマニュアル化・見える化を進め、失敗減少・作業効率向上に繋げる—

＜業務内容をマニュアル化する時の留意点＞

- 栽培・出荷マニュアル作成は、写真や動画を盛り込む、作業者とともに議論する、作
業者の言葉で表現することで、作業に対する理解が進む。
- 作業の仕方を教えるというより、何のためにその作業があるのか、考えるためのツ
ールとして作業マニュアルを作成する。
- 作業スケジュールを作成し、どの作業をいつまでに終わらせなければいけないのかを
明確にする。
- 就業時間内に作業日誌を記入する時間を設ける、タイムスケジュールがある日誌を使
用するなど、時間内で働く癖をつける。

土壌分析を実施しましょう

土作りの第一歩は土壌診断です。
3年に1度は土壌診断を行い、土壌の状態を把握し、施肥設計に活かしましょう。

【土壌の採取方法】

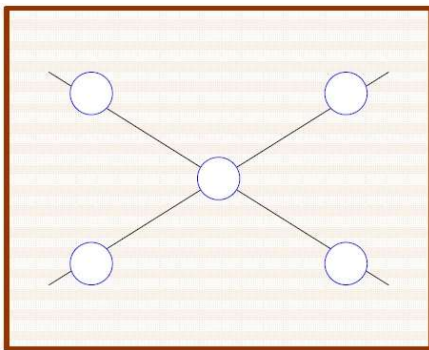


図1 土壌の採取位置

土壌の性質は、一筆のほ場の中でもかなりのばらつきがあります。

生育に差が見られない場合は、対角線に5か所以上を採取し、よく混ぜて一つの分析用の試料(500g程度)とします(図1)。

生育に差が見られる場合は、それぞれを同様に採土してください。

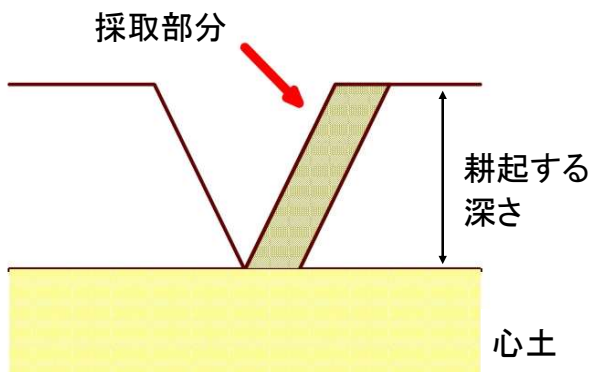


図2 土壌採取の深さ

このとき、表層部を薄く剥いだ後、耕起する深さまでV字型に掘り、その面に沿って一定の厚さで採土します(図2)。

● 印の場所から耕起する深さで採土してください。

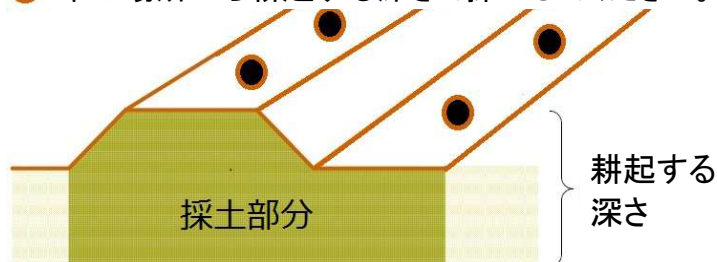


図3 うね立てしている場合の土壌の採取位置

野菜畑などでうね立てしてある場合は、隣のうねにかけて採土するか、うねとうね間を交互に採土します(図3)。

申し込み時期、分析料金などについては、農協等にお問い合わせください。